

3. AED・救命処置の流れ

(次ページ、東京消防庁作成「救命処置の流れ（心肺蘇生法とAEDの使用）」参照)

3-1. AEDについて

心臓突然死は、しばしば心室細動という重症の不整脈によって引き起こされます。

AEDは、電気ショックを与えることで心室細動を取り除き、心臓の機能を正常に近い状態に戻すことができる装置です。AEDの使用が1分遅れるごとに7%から10%の割合で生存率が低下すると言われていいます。甲南大学では、キャンパス内の15箇所にAEDを設置するとともに、クラブに所属する学生を対象として年3回のAED講習会を開催しています。

課外活動で使用するAEDの設置場所を参考として以下に記載します。

- ◆岡本キャンパス 「講堂兼体育館ロビー」「防災センター」「正門守衛室」
- ◆六甲アイランド総合体育施設 「六甲アイランド事務室内」「六甲アイランド Ship3-1 階」
「六甲アイランドトレーニングルーム（守衛室）」
- ◆広野施設 「広野グラウンド管理人室」

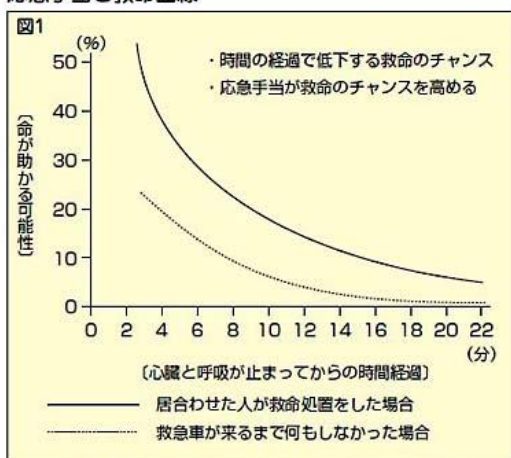


※すべてのAED設置場所にこのマークを掲示しています。

3-2. 救命処置について（東京消防庁「応急手当の基礎知識」より抜粋）

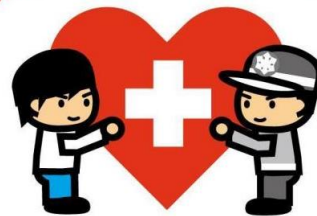
心臓や呼吸が止まった人の治療はまさに1分1秒を争います。図1を見てわかるように、心臓や呼吸が止まった人の命が助かる可能性は、その後約10分の間に急激に少なくなっていきます。このようとき、まず必要なことは「すぐに119番通報する」ことです。119番通報が早ければ早いほど、病院に早く到着できます。また、病院に到着するまでの間も、救急隊員による救急処置をより早く受けることができます。しかし、それだけでは十分ではありません。救急車が到着するまでには全国平均で6分間以上かかります。救急車が来るまで手をこまねいては、助かる命も助けられないこととなります。そこで、そばに居合わせた人による救命処置が必要になるのです。

応急手当と救命曲線



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用

応急手当を身につけよう!



心停止の予防 早期認識と通報 (119) 一次救命処置 (心肺蘇生とAED) 二次救命処置と心拍再開後の集中治療